

茨城高等学校・中学校

校長室だより

2021年9月2日

ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、一本のペン

アフガニスタン情勢が混迷を極めています。アメリカ軍のアフガニスタン撤退を機に武力で政権を奪い、新国家の樹立を目指す反政府組織タリバンは、厳格なイスラム法による統治を宣言しています。8月、テレビニュースでは、タリバンによる暴力や自由の制限を恐れる市民が難民化して空港や隣国との国境に避難しようとする映像が繰り返し放映されていました。26日にはタリバンと対立関係にあるIS分派によるアメリカ人を標的としたとみられる自爆テロが発生し、アメリカは報復の空爆を実行しました。

タリバンの信奉するイスラム法は女性の就労や教育を認めていません。(実際にはイスラム法には様々な解釈があり、イスラム教を信仰する国々の多くでは女性の就労や教育が行われています。)1996年～2001年の間アフガニスタンを支配した当時、タリバンはイスラム法を独自に解釈し、厳罰を手段とした統治を行いました。女性はブルカと呼ばれるマント状の布で全身を覆うことを強制され、10歳以上の女子は学校で学ぶことができませんでした。首都カブール掌握後に行われた会見の中で、タリバンは「イスラム法の範囲内で女性の権利を尊重する」と述べていますが、懐疑的な受け止め方も少なくありません。

マララ・ユスフザイさんもその一人。「タリバンの歴史を考えれば、懸念は現実のものだ」と疑問を投げかけ、アフガニスタンの女性の保護を各国に訴えるメッセージを発しています。

アフガニスタンの隣国パキスタンで生まれたマララさんは、女性が教育を受けることを禁じたパキスタン・タリバンの影響化にある地域で、女性への教育の必要性や暴力の排除を訴える活動を続け、2012年(15歳当時)、スクールバスの中でタリバンの男たちから頭部に銃撃を受けます。生死の間をさまよったものの一命をとりとめ、その後も教育や平和のための活動に尽力し、2014年に最年少のノーベル平和賞受賞者となるのです。

2013年に彼女が国連本部で行った有名なスピーチがあります。「光の大切さがわかるのは、暗闇の中にいるときです。声の大切さがわかるのは、声をあげるなどいわれたときです。それと同じように、パキスタン北部のスイート(*マララさんの故郷)が銃だらけになったとき、わたしたちは、ペンと本の大切さに気づきました」と教育の価値を説き、「世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンを持って闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強力な武器なのです。ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えるのです」と呼びかけた16歳の少女の言葉にはじめて触れたとき、長年、教育を職業としてきた人間の一人として、心が震える思いがしたことを記憶しています。

現在、世界には貧困や紛争により教育を受けられない子どもたちが3億人以上いるといわれています(2018年ユニセフより)。彼らは成人しても十分な収入を得られる職業に就くことが困難なため貧困状態に陥りやすく、彼らの子どもたちもまた教育を受けることができないという、いわゆる「負の連鎖」を生んでいきます。SDGsにも「すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保」することが目標として掲げられ、教育の普及がすべての開発目標達成のため不可欠な要素であるとの認識が示されています。

「世界には学びたくても学べない子どもたちが大勢いる。だから、いま自分が学べることに感謝して一生懸命に勉強なさい！」などと陳腐なお説教をするつもりはありません。ただ、世界でいま何が起きているのか、それが自分とどのようにつながっているのかを知ろうとすることはとても大切です。世界は、自分のまわりの限られた人間関係の中にあるわけではありません。遠く海や国境を越えたむこう側までつながっていることを現実のこととして認識すべきです。心の中の地平線をはるかかなたまで広げることがグローバル時代を生きるすべての人に求められているのです。

グローバル化が高度に進行した社会では、世界中のさまざまな出来事は相互に複雑に結びつきながら存在します。遠く離れた地域の出来事についても完全に無関係でいることは不可能です。2001年9月11日の同時多発テロをきっかけに、アメリカは「テロとの戦い」に大きく舵(かじ)をきり、アフガニスタンに軍事介入しました。戦火はアフガニスタンからイラク、シリアへと広がり、多くの市民の生命と生活が失われました。そのアメリカの姿勢に終始追従してきた日本に暮らす私たちにとっても、現在のアフガン情勢は「自分たちとは無関係な見知らぬ人たちの身の上で起こった不幸」ではありえないのではないのでしょうか。少なくとも私たちの目や耳は、そこで何が起きているのかをすでに見聞きしています。

2013年の国連スピーチで、マララさんは「(今スピーチを行っているのは)わたしの声ではありません」と言っています。平和、教育、平等といった権利を求めるたくさんの人々のひとりとしてここに立っているのだ、と述べています。アフガニスタンの混乱を報じるニュース映像を観ていると、その中に、何千、何万人の「マララさん」がいることを思わずにはられません。

新型コロナウイルス感染拡大にともない、本校では9月10日までオンライン授業を継続することとなりました。一日中、PCやタブレットの画面をとおしての授業は、対面の授業と比べていろいろな不都合があるかもしれません。しかしITの進化は、コロナ禍の中でも君たちの学びを止めることのない環境をもたらしてくれています。学ぶことへの渴望、学ぶことへの情熱が人を動かします。学びは人を成長させ、社会を動かします。「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、一本のペン」には世界を変える力があることを信じたいと思います。

自分のイイトコロ

唐突ですが、「あなたの良いところは何ですか？ 5つあげてみてください」と言われたら、君ならどう答えますか？

「えーと、まず顔がいいでしょ、それと頭がいいし、性格がいい。それからかわいい or かっこいい。あっこれは顔がいいのと一緒か？ それじゃ、ギャグセンが高い、アイドルにくわしい、〇〇先生のモノマネがうまい…、あれ？ 6個になっちゃった！」などとスラスラと答えられた人は、とりあえずこの文章をスキップしてもらって結構です。

上記のような一部の人を除き、ほとんどの人にとって自分を客観化し、評価することは簡単ではありません。まして「謙譲の美德」を重んじる文化を持つ日本人は、自分の長所を積極的にアピールすることが不得意とされています。

2016年、文科省が教育再生実行会議に提出した「日本の子どもたちの自己肯定感が低い現状について」という資料の中に、日本の高校生や若者の意識を、他の国と比較した調査結果があるので紹介します。

「私は人並みの能力がある」に対して「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した高校生の割合。日本：55.7% アメリカ：88.5% 中国：90.6% 韓国：67.8%

「自分はダメな人間だと思うことがある」に対して「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した高校生の割合。日本：72.5% アメリカ：45.1% 中国：56.4% 韓国：35.2%

「私は、自分自身に満足している」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した若者の割合。(調査対象：13歳～29歳の青少年) 日本：45.8% 韓国：71.5% アメリカ：86% イギリス：83.1% ドイツ：80.9% フランス：82.7% スウェーデン：74.5%

「自分は役に立たないと強く感じる」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した若者の割合。日本：47.1% 韓国：50.3% アメリカ：46.7% イギリス：53.4% ドイツ：20.9% フランス：29.5% スウェーデン：22.7%

この調査結果については、日本人の国民性、調査対象者の範囲の設定、調査方法などがさまざまな要因の影響が考えられ、鵜呑みにはできない部分もあるかもしれません。しかしながら、日本の若者は諸外国の若者と比較してどうやら自己肯定感があまり高くないようだ、という事実は認めざるをえないでしょう。「なぜそうなのか」についての分析は、専門家に任せたいと思います。ここでは、私たちはこの現実をどのように受け止めるべきなのかを考えてみたいと思います。

自己肯定感、自尊意識、自尊心など呼び方は様々ですが、おおむね「自分に価値がある」と思い、自分の良さを認めることができる心の状態」と解釈してよいでしょう。（厳密に言うと、自己肯定感と自尊意識は心理学的には別のものらしいですが・・・）自己肯定感が成長的なマインドセット（思考態度）をうながすということは、心理学の分野では定説になっているようです。

例えば、失敗をどう受け止めるかは、自己肯定感の高低によって大きく変わります。失敗をしてしまったとき、自己肯定感の低い人は「また失敗してしまった」「やっぱり自分はダメなんだ」とマイナス思考に陥りがちです。「次にまた失敗したらどうしよう」と失敗が怖くなり、前にすすむことをためらうようになります。

一方、自己肯定感の高い人は、自分に自信があるため、失敗に萎縮せず、なぜ失敗したのかを冷静に受け止めることができます。「何とかなるさ」と、失敗を恐れずに考えを実行に移すことが容易です。また、失敗を修正して次に活かそうとするので、失敗を成長につなげることも可能になります。

こうした自己肯定感が高いことによるメリットは、勉強、仕事、人間関係などさまざまな場面で認めることができます。一般に、自己肯定感の高い人は人生に対する幸福感が高く、自己肯定感の低い人は幸福感も低いとされています。

それでは、自己肯定感を高めるためにはどうしたらいいのでしょうか？

ある日突然、「ウォー！オレは最高だー！無敵で最強だー！！」と叫んでみたとしても、「〇〇君、大丈夫？」と周りから心配されるのがオチです。かといって、「君は自己肯定感が低いから、自己肯定感を高く持ちなさいね」と言われても、どうしていいか困ってしまいます。

ここから先は、完全に筆者の私見になるので、そのつもりで読んでください。

自己肯定感を高めるポイントの一つは、「がんばった経験」だと思います。ハウツー本などでは「成功体験が自己肯定感を高める」と書いているものもありますが、少し違うのではないかと考えています。例えば、宝くじで100万円が当選したり、たまたまヤマが当たってテストの点がよかったりした場合、自分を認める気持ちは強まるでしょうか。「ラッキー！」とは思いますが、「自分には価値がある」という認識にはつながりにくいと思います。しかし、テスト前に一生懸命勉強して、その結果テストの点数があがったとしたら、がんばった自分を認める気持ちになるでしょう。努力したか、していないかを最も正しく評価できるのは自分自身です。仮に、がんばって勉強した結果、テストの点は思うように伸びなかったとしても、がんばった経験自体がその人の自信につながることも大いにあり得ると思います。

自己肯定感を高めるもう一つのポイントは、「自分が他人や社会の役に立っているという実感」です。他人を顧みず、ひたすら自分の利害のためだけに生きる人生を想像してみてください。たとえその結果、巨万の富を築いたとしても、それは豊かな人生でしょうか。自分には価値があると思えるでしょうか。本校建学の精神「報恩感謝」は、それとは対極の立場です。数多くの人の「恩」に支えられて今の自分があり、その恩に報いるべく、他者や社会に役立つ生き方をしよう、というのが報恩感謝の考え方です。誰かのために役立っている自分を発見することで、私たちは自分自身を認め、自分の生き方に自信を持つこ

とができるのです。

自己肯定感と似て非なるものに、優越感があります。優越感は相対的な感情です。自分より劣っている対象があつて、はじめて優越感は成立します。自分が70点だったテストで、友人が50点だったら優越感をもつことができます。しかし、別の友人が90点を取っていたらどうでしょう。優越感はたちまち劣等感に変わってしまいます。優越感と劣等感はコインの表裏のようなもので、実は同じものです。他人との比較の中では、本当の自己肯定感を得ることはできません。

私たち人間には、多くの長所があると同時に多くの短所もあります。長所だけの人も、短所だけの人も存在しません。自己肯定感の低い人は、ともすれば自分の短所ばかりに目が行き、自分の長所を正しく評価できていないのかもしれない。

スタンフォード大学・オンラインハイスクール校長の星友啓氏の著書『スタンフォードが中高生に教えていること』（SB新書）の中に、「ギフトッド」と呼ばれる子どもたちが紹介されています。この場合の **gift** は、天からの贈り物、才能を意味します。「ギフトッド」とは、特別な才能や高い能力を持つ子どもたちのことです。しかし、星氏はギフトッドの子どもたちがその才能ゆえに直面する問題があるといいます。通常の授業が簡単すぎてクラスの中で浮いてしまう、考え方が独特で他の子どもが理解できない、自分の意見に執着して他の生徒とうまくやれない、特定分野での才能と精神疾患や学習障害がともなう場合もある、とも書かれています。このように、ギフトッドの子どもたちにとって才能は問題点と表裏一体で存在します。それはその人の「特性」であり「個性」であり、それを長所として伸ばすのか、短所として否定するかは、考え方次第なのではないでしょうか。

もしも君が今、認めたくない、好きになれない「自分」を感じているなら、一度その「自分」としっかり向き合ってみてほしいと思います。好きになれないと思っていた特性が、実は君にとっての **gift** であるかもしれないからです。

最初の質問に戻ります。あなたの良いところは何ですか？自己肯定感、君が未来に歩を進めるための原動力です。